

○第5回行政評価委員会のまとめについて	
委員長	<p>議題1の第5回委員会の議事録(案)について、【資料1】として添付しているので、特に修正等の意見があれば、発言をお願いしたい。</p> <p><特に意見なし></p>
委員長	<p>では【資料1】第5回委員会の議事録についてはこれで確認をいただいたということとする。</p> <p>では議題1の2点目、【資料2】第4回行政評価委員会まとめ(案)の修正点確認について。修正点が下線で示されている。確認願いたい。</p> <p><特に意見なし></p>
委員長	<p>では、【資料2】第4回行政評価委員会まとめ(案)の修正について確認をいただいたということとする。</p> <p>引き続き、第4回行政評価委員会の審議案件中、緑化保全活動団体への補助金の件で、説明が十分でなく審議し切れなかった。委員、委員からも説明を求める意見をいただいている。担当部局から補足の説明をお願いしたい。</p>
生活安全室長	<p>中山台コミュニティ緑化環境対策部への補助金経過について。本市が所有する中山台残存緑地において、アレルギー誘引植物、枯れ松の伐採、草花の植栽等、緑地の整備活動を自主的に行ってもらっている。当時、中山台残存緑地に食物アレルギーや花粉症の原因となる「やしゃぶし」が本数約2万本あり、伐採費用に5億円が必要と判明した。住民から相談を受けたものの、市としては阪神大震災復興事業を最優先としており、問題として認識はするが、すぐには対応できない状況だった。そこで地域住民が緑化環境部を立ち上げ、住民がやしゃぶしを伐採し、市が処理をするという協働の取組が始まり現在に至っている。ただ、市所有の残存緑地の整備を、住民に無償でもらうわけにはいかないため、平成15年ごろから一定補助金を出している。結果、平成20年頃やしゃぶしはほぼ伐採完了となった。やしゃぶしは無くなったものの、残存緑地は広く、刈りっぱなしというわけにもいかないため、緑化環境対策部がツツジや桜の植栽、枯れ松対策、樹木の植栽整備、剪定等の整備を行っている。住民側の負担も多額であり、</p>

	<p>補助を継続して行っている。今後も残存緑地の整備については市と緑化環境対策部が役割分担しながら、協働で整備を行うという良好な関係を続けていきたい。市内で同様の団体があれば、管理協定を結び、同様に助成を行っていきたくと考えている。</p>
委員	<p>やしゃぶし問題、枯れ松等をきっかけに緑化環境対策部が立ち上がったが、平成20年頃にやしゃぶし伐採はほぼ終了。ただ、切った所をそのまま放置できないので、ツツジや桜の植栽等、整備を目的に補助が継続されているという理解でよいか。</p>
生活安全室長	<p>枯れ松伐採、植栽、除草剪定、保険費用、資材購入費等が助成対象となっている。</p>
委員	<p>そのような活動内容、目的に対して助成を行っているのであれば、同様の団体が出てくれば同等の補助をするのか。前向きに助成対象として検討してもらえると理解してよいのか。今はたまたま1団体しか助成していないということか。残りの3団体はどうか。</p>
生活安全室長	<p>1団体ではなく他にも助成団体はある。</p>
委員	<p>第4回の委員会では補助は中山台コミュニティだけで、他は機材や資材等の費用がいくだけといった説明だったのではないか。</p>
生活安全室長	<p>本年度は中筋山手で助成を行っているところもある。他は資材の提供等になっているが、中山台だけではない。</p>
きずなづくり室長	<p>前任者として補足だが、北雲雀丘きずきの森、桜守の会も助成している。</p>
委員	<p>第4回の委員会での説明と若干違うようだが。</p>
公園緑地課	<p>箇所数は現在4箇所。最初に補助対象となったのが中山台。中山台緑地対策助成金の名称で平成15年から助成している。以降の団体については、管理協定を結んで、手数料による助成を行っているため、予算書上表に見えてこないが、同額の助成を行っている。順番で言うと中山台の次が桜の園、きずきの森と続く。係る経費相当分とはいかない</p>

	<p>が、中山台と同等額を助成している。中山台残存緑地の広さについて簡単に説明すると、86ヘクタールの広さがあり、平成22年度は延べ50回の作業実施、延べ747人の参加があり、経費は約250万円。平成23年度は延べ54回の作業実施、延べ816人の参加があり、経費は同じく約250万円かかっている。同等額の助成とはいかないが、50万円を助成している。</p>
<p>委員</p>	<p>活動範囲の面積をもう一度教えて欲しい。</p>
<p>公園緑地課</p>	<p>実際の活動エリアの面積は分からないが、クラレから寄付を受けた際の台帳上の面積は86ヘクタール。86万平方メートル</p>
<p>委員</p>	<p>どのエリアでどういう活動をしているか把握しているか。</p>
<p>公園緑地課</p>	<p>毎年春に公園緑地課、道路管理課、緑化環境対策部で協議を行い、概ねいつ頃、どのエリア、作業の内容・規模等について年間計画を出してもらう。</p>
<p>委員</p>	<p>「補助金」という表現がつくのは1箇所だけということか。</p>
<p>公園緑地課</p>	<p>補助金という費目から支出しているのは1箇所だけ。他の箇所も活動内容に対する市の支援は行っている。</p>
<p>委員</p>	<p>どの活動団体にも何らかの支援はあるということか。それならば、先ほど検討した文言では少し違うような気がする。</p>
<p>委員長</p>	<p>だとすると、【資料2】の2ページ、「3 緑地や里山の保全・再生、管理に努めます」のまとめ案中、『一は、統一基準の下に適切な支援を行うべきである』としているが、この表現は適切なのかということになる。</p>
<p>委員</p>	<p>前回とは認識が違っている。</p>
<p>委員</p>	<p>補助金として出しているのは中山台コミュニティのみとのことだが、残り3つとの区分けはどうなっているのか。やはり助成の基準が統一されていないように思える。</p>

<p>委員長</p>	<p>内容的には概ね一緒だという説明だが</p>
<p>公園緑地課</p>	<p>助成に至る経緯はまったく一緒ではない。中山台緑化環境対策部については、本来市が行うべき作業を、代わりに担ってもらっているという認識であり補助金という形での支援が相応しいと判断した。きずきの森などは、元はURの所有であったが、新たな開発をされては困るという思いもあり、住民の手で緑地保全を行っていかうということになった。整備は県補助金を使って行い、運営について、市は敷地所有者としての管理を行い、表面管理は地元で行うという、協働の管理協定を結んでいる。桜の森、中筋山手の森についても管理協定を結ぶ形で運営しており、他と中山台コミュニティのケースは経緯が異なる。</p>
<p>委員長</p>	<p>里山の再生・保全を市民の力を借りて行うにあたり、市民団体から相談を受けてから、その内容に応じて補助金による支出か、手数料による支出かを判断するということか。やはり「3 緑地や里山の保全・再生、管理に努めます」のまとめ案の表現は変えたほうがよいかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>中山台は補助額50万円、桜の園やきずきの森への金額は。</p>
<p>公園緑地課</p>	<p>何れも50万円。経費を丸々出せるわけではないが、助成額については、管理内容等を積算単価表にあてはめ算出する。中筋山手の森は住宅圏から近いこともあり助成額10万円となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>中筋山手は別として、金額が大きく変わらないのなら、何か統一の基準を設けられるのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>県のアドプト制度があり、桜守の会も登録しており、県の土地を整備している。阪神北で32団体が登録しており、その32団体に支給する資材用の助成が100万円。登録団体から申請があれば、このお金で資材を買って渡す。これに比べると残存緑地整備で50万は金額が大きいという印象を持つ。市はもう少しきちんとした助成基準、助成金の執行ルールのようなものを設けるべき。</p>
<p>公園緑地課</p>	<p>中山台の場合は補助金なので補助要綱があるが、他の3団体は管理協</p>

	<p>定。明確な基準等はなく、今後整理する必要性は感じている。公園アドプト制度の積算基準等も援用しながら助成を行っている。県アドプトの話があったが、県と市では若干取組が違う。一般市民も参加する活動であり、その中に桜守の会もいるということ。市助成額に比して金額が少ないから桜守の会が大変とか、市助成額が甘すぎるとか、そういう話ではない。</p>
委員	<p>先程から聞いていると、面積とか、金額とか、金額はほぼ同額で、特に団体にも特定の傾向は無いようだ。市の所有地について、緑地整備・管理を行いたいという団体があれば補助金か助成金かは別にして、どんな団体でも助成対象としてもらえるのか。もうこれ以上助成団体を増やさないといったことでもなく、希望があれば手を上げればいいのか。</p>
公園緑地課	<p>その都度の相談となるし、予算の範囲内での助成というのが原則。申請あればいくらかでも助成できるものではないが、話があれば当然聞く。双方合意の下に協働でやっというものだから、どういう基準があるのかといわれると、全て一から相談していくことになる。</p>
委員	<p>先日の中山台コミュニティの会議の中で出てきた話だが、先日の委員会の後、市広報誌のトップに「中山台コミュニティ 緑化環境対策部 中山桜台自治会」として、単位自治会の活動が紹介されるような形で掲載された。同じエリアの自治会長から「単位自治会の活動だけがこんなふうに紹介されるというのはどういうことか」と指摘があった。「同じエリアに、12ほど自治会があるが、エリア全域を網羅するような活動の現状にはなっていない。してもらえるところ、してもらえないところ、ギャップがすごくある状況の中で、ひとつの自治会だけで活動しているように、クローズアップされたのか」といった質問が出てきた。中山台には中山台の中の事情があると思うし、私はその部会ではないので詳細までは分からないが、もし本当に助成に関して相談に応じてもらえるということであれば、「部会ではしてもらえない自分たち単位自治会の中の活動を、助成してもらえるのか」という質問が出かねないなと思った。広報誌に、載ったのが単位自治会だけが紹介されたような載り方をしたため、それと50万が結びついて、単位自治会の活動だけにそれが入っているように取られるとちょっとややこしいことになると思った。</p>

公園緑地課	<p>単位自治会という認識ではなく、緑化環境地策部という横串で捉えている。ただ誤解生んだようなら今後は表現に注意する。</p>
委員長	<p>指摘の趣旨は、補助金ではないので、どのような条件で、どのような団体が申し込めばよいのか分からないということ。実務上の都合は色々あるかと思うが、管理協定をいつ、どんな形で、誰が申し込めばよいか分かりにくい。緑地や里山の保全・再生をどのように行っていくのか、その活動支援をどのように行うのかを明確にすべきではないか。</p>
公園緑地課	<p>基準を明確にしなければならないとは感じている。これまでは各団体から相談があった段階で受身的に判断していた。緑地管理を主体的に行っていくというのはかなり難しいと思うが、今後、内部の取決めを作っていきたい。</p>
委員	<p>内部の取決めというのは、市民への周知は行わないということか。</p>
公園緑地課	<p>補助金が出るならやってみようかといった形ではなく、簡単なことから実績を積み重ね、学習していく中で、結果的に住民による緑地保全・管理に行き着くと考えている。一足飛びに補助金の話になるのではなく、時間をかけて取り組む中で、協働の管理にたどり着き、そこで補助・助成の話が出てくると考えている。</p>
きずなづくり室長	<p>里山活動は思っているよりも難しい。中山台の場合、設立当初私自身も作業を手伝ってきた。7年後公園緑地課に配属された時、素晴らしい活動に発展していることに気づき驚いた。時間をかけて地元と協議を重ね、実績を積んでもらい、これならやれそうだと判断してから、役割分担等の細かい話を詰めていくことが必要。今後も地域の団体が力を付け、大きく伸びていこうとするのを市としても手助けしていきたい。</p>
委員長	<p>安易な応募は困るが、それでも新しく入ってくる人に分かりやすい制度である方がいいだろう。</p>
委員	<p>こういった補助金は毎年見直されるのか。それとも一旦決まったらず</p>

<p>公園緑地課</p>	<p>つと継続されえるのか。</p> <p>通常の補助金と同様。申請があつて、内容を審査し、補助の趣旨、要綱に照らして適正な内容であれば、助成を決定する。</p>
<p>委員長</p>	<p>まとめであるが、</p> <p>【資料2】第4回の評価まとめ案中「3 緑地や里山の保全・再生、管理に努めます」について、</p> <p>下から3行目、</p> <p>旧：『一支援方法が統一的でない。』を</p> <p>新：『一支援方法が統一的でなく、分かりにくい。』に修正。</p> <p>下から2行目、</p> <p>旧：『一は、統一基準の下に適切な支援を行うべきである』を</p> <p>新：『一は、支援の仕組みを明らかにして、適切な支援を行うべきである』に修正する。</p>
<p>委員長</p>	<p>引き続き【資料3】第5回のまとめ案の確認を行いたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>【資料3】1ページ『2 豊かな自然環境の保全など、生物多様性を意識したまちづくりを推進します』のまとめ案中、2行目、</p> <p>旧：『取組を進めるという姿勢は評価するが、』を</p> <p>新：『取組を進めるという姿勢は先進的であると評価するが、』に修正。</p>
<p>委員</p>	<p>【資料3】1ページ『3 環境問題に関心を持ち、自ら行動する市民の増加を図るなど、環境活動の広がりを促進します』のまとめ案中、4行目、</p> <p>旧：『取組内容を的確に表示ようにしていただきたい。』を</p> <p>新：『取組内容を的確に表示していただきたい。』に修正。</p> <p>最後から2行目、</p> <p>旧：『環境を担う部門と市民協働を担う部門など、』を</p> <p>新：『環境を担う部門と市民との協働を担う部門など、』に修正。</p>
<p>委員</p>	<p>【資料3】1ページ『1 市民と連携・協力した取り組みを展開し、都市美化を推進します』のまとめ案中、1行目、</p> <p>旧：『参加者は自治会加入者』を</p> <p>新：『参加者は自治会員』に修正。</p>

<p>委員長</p>	<p>2行目、 地域での清掃と市の回収のタイミングが 旧：『地域での清掃と市の回収のタイミングが』を 新：『地域毎での清掃時間と市の回収のタイミングが』に修正。</p> <p>【資料3】1ページ『3 墓地の長期的かつ安定的な供給などに努めます』のまとめ案中、2行目、 旧：『一説明があったが、墓苑へのアクセスは大きな課題であり、また、最近は墓地に対する市民の考え方も変化しつつある。宝塚すみれ墓苑事業の経営健全化に向けて、バス等のアクセス改善に努めるとともに、合同墓地の整備や、植木のまちを生かした樹木葬の検討など、墓地及び葬送に対する市民ニーズに即した事業展開を図っていただきたい。』を 新：『一説明があったが、なぜ墓苑を直営としたのか、市民への分かりやすい説明が求められる。宝塚すみれ墓苑事業の経営健全化に向けては、バス等のアクセス改善に努めていただきたい。また、最近は墓地に対する市民の考え方も変化しつつある。例えば合同墓地や植木のまちを生かした樹木葬など、墓地及び葬送に対する市民ニーズに即した事業展開を図っていただきたい。』に修正。</p>
------------	--

○「施策展開の方針」のまとめ（案）について	
委員長	【資料4】第1回～第5回のまとめ（案）の再確認について改めて全体を見直してみて、修正・変更がないか確認したい。まずは<危機管理>の施策について。
委員	原発に関する言及は必要ないか。原発事故、津波、大災害についても入れておくべきではないか。
政策室長	危機管理指針の範囲は地域防災計画に掲載あるものは除いている。
委員長	地域防災計画の第2章第2節に市として防災上留意すべき項目中に「原子力」とある。備えていないということではなさそう。続いて<防災・消防>の施策についてはどうか。
委員	『1 地域における支えあいなど日頃から共助の仕組みをつくり醸成することにより市民の防災力を高めます』について、地域の中で自治会長に防災意識に関するアンケートをとった際、年齢層が70代、60代が多く、メールを自由に使える世代は少ない。情報弱者への情報発信方法についても考慮するべきではないか。
委員長	「ニーズに応じた情報発信の方法を検討課題として指摘する」としており、広い意味ではここに含まれるかと思うが。
政策室長	市としては緊急時の情報発信の手段として、メール、ラジオといったレベルで考えている。防災無線等を新たに整備するといったことは今のところ考えていない。新たな情報発信手段の必要性については、このような場でいただいた意見は集約の上、市の担当部局など、検討の場に上げていく。
委員	時代の流れでメールやインターネットの利用が増えるのは当然。ただ、現状を見ていると、メールやネットといったものに弱い層の方が多く残っている。古いものを新しいものに切り替えるのではなく、古いも

	<p>のを残しつつ新しい上積みをしてもらえるとよいのだが。</p>
<p>委員長</p>	<p>無線の復活は可能か。おそらく膨大なコストがかかると思うが。</p>
<p>政策室長</p>	<p>防災無線の整備には億単位のコストが必要になる。宝塚市の防災において重要となるのは、大雨、河川氾濫といった水害。防災無線の機能や信頼性、長所短所を検討した結果、防災無線整備は見送っている。</p>
<p>委員</p>	<p>無線は一例だが、私の地元では夕刻になるとコミュニティセンターから放送を流す。これを災害放送に使えないかと地元で検討したこともある。もちろん全市的に使えるものではないが、情報弱者がどう情報を取るのかをきちんと考えて欲しい。</p>
<p>委員長</p>	<p>車にスピーカーを積んで走ったり、ラジオ放送をしたりといった手法が一般的だろう。</p>
<p>委員</p>	<p>市民はそういう形で情報発信されると認識しておく必要がある。</p>
<p>委員長</p>	<p>円滑、的確な情報伝達に一層の努力を一といった表現を加えるか。</p>
<p>政策室長</p>	<p>情報弱者への情報伝達については課題としては認識している。</p>
<p>委員長</p>	<p>「安心メールのニーズに応じた発信方法」という表現の主旨につて再度確認したい。</p>
<p>委員</p>	<p>防犯メールも含めていろんなメールが流れてくるのでどれが一番大事なメールか分からない。地域性無視のメールも多い。</p>
<p>委員長</p>	<p>『1 地域における支えあいなど日頃から共助の仕組みをつくり醸成することにより市民の防災力を高めます』のまとめについて、 新：『情報弱者への情報伝達について一層の努力をお願いしたい』の主旨を盛り込むこととする。字数の関係もあり調整が必要。私と事務局で引き取らせていただく。 続いて<防犯・交通安全>の施策はどうか。 <特に意見なし></p>

<p>委員長</p>	<p><土地利用>の施策について。</p> <p><特に意見なし></p>
<p>委員長</p>	<p><市街地・北部整備>の施策について。</p> <p><特に意見なし></p>
<p>委員長</p>	<p><住宅・住環境>の施策について。</p> <p><特に意見なし></p>
<p>委員長</p>	<p><道路・交通>の施策について。</p> <p><特に意見なし></p>
<p>委員長</p>	<p><河川・水辺空間>の施策について。</p> <p><特に意見なし></p>
<p>委員長</p>	<p><上下水道>の施策について。</p> <p><特に意見なし></p>
<p>委員長</p>	<p><都市景観>の施策について。</p> <p><特に意見なし></p>
<p>委員長</p>	<p><緑化・公園>の施策について。</p>
<p>委員</p>	<p>【資料4】6ページ『1 地域の特性に合った公園整備を進めるとともに、協働による適切な管理に努めます』のまとめ中、下から2行目「花壇等の公園整備まで行う市民団体を育成することも検討いただきたい。」とあるが、これはすでに制度があつて、その制度の充実をという話だったと思う。地域が公園管理を行うとき問題点は高齢化。若い</p>

<p>公園緑地課</p>	<p>世代がついてこないが無理。地域がお金と労力を出して行うことを認めるなど、柔軟な制度対応を検討して欲しい。</p>
<p>委員</p>	<p>ボランティアに関しては、総じてどこでも同じ課題を抱えている。高齢化の問題で活動を休止・廃止する団体もあるが、団体数自体は増えていっている。ここにボランティアの高齢化云々の文言が入ると、緑化・公園だけが問題を抱えているような印象を受けてしまう。</p>
<p>公園緑地課</p>	<p>確かにな体的な問題。ただ、緑化や公園にかかるボランティアは高齢化の影響が顕著だと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>同まとめ中、4行目「地域住民による草刈りや樹木の剪定が行われているが、」とあるが、どの公園でも住民による公園管理が行われているような印象を受ける。また、高木の剪定は地域住民には難しいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>『1 地域の特性に合った公園整備を進めるとともに、協働による適切な管理に努めます』のまとめ中、4行目 旧：「公園の管理に関して、地域住民による草刈りや樹木の剪定が行われているが、」を 新：「一部の公園の管理に関して、地域住民による草刈りや清掃が行われているが、」に修正。</p> <p>以下の施策については時間の都合もあるので、再確認はここまでとさせていただきます。次年度以降も評価は続くわけだが、300字という制限のある中で、方針の善し悪し、指標の結果等、事務事業の内容の是非や、改善提案といったものが区別無く出てくるので、各委員とも大変だったと思うが、沢山の意見をいただくことができた。</p>

○議題3 行政評価委員会の全体的な講評について	
委員長	<p>行政評価委員会講評を取りまとめるにあたり、各委員から、事前に意見を事務局に提出いただいております。資料5として、添付しています。それを講評として、最終的にどのように、まとめていくかということについて、議論していくので、よろしくお願いします。</p> <p>具体的には、各委員の意見について、説明をいただき、その上で、意見の取捨選択を行いながら、委員会意見として講評に取り込んでいくものについて、議論していく。最終的な文案については、私と事務局に一任いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
委員長	<p><各委員意見></p> <p>まず、円滑な運営を行われた事務局、活発な意見を出していただいた各委員、真摯な態度でヒアリングに出席いただいた各担当部局の職員に感謝したい。また、理事に出席いただいた点についても、評価結果を総合的観点から活用する上で、大きな意味があったと思う。</p> <p>次に評価についてであるが、施策の展開方針ごとに1～2分の説明を受け、1つの展開方針に割ける時間が10分程度ということで、細切れすぎて、議論がやり難かったという感想を持った。具体的な改善案としては、次年度は施策ごとに、まとめて議論した方が良いと考える。また、施策展開方針の目的部分については、計画で決められていることとして、評価の対象外としたが、社会経済情勢は変化するものであることから、次年度以降は、委員会として意見を言うべき対象としたい。次に、施策展開方針の下にある事務事業については、主要な事務事業のみが、記載されており、すべての事務事業が記載されておらず、展開方針の実現ための適切な手段（事務事業）が取られているのを見る上では、改善が必要と感じた。また、事務事業の概要と実施効果の記載部分については、限られたスペースであるが、事業名称だけでは判断できない事業の内容や、施策展開方針にとっての必要性、費用対効果の適正さを伝えることができるようにすべきであり、改善の余地があると感じた。総じて、委員会の役割としては、第三者が、施策体系とその実施について、適正であるか、無駄がないかをチェックし、アイデアを出すという行政評価に期待される役割は、果たせたと考える。</p>

委員長	<p>続いて、委員に意見の説明をお願いします。</p>
委員	<p>全体的に見て言える事だが、行政が部局横断的に取り組む課題が多くあるが、しかしながら、複数部局が関わってどうだったのかという評価ができていない。例えば、各部局単位では、順調に行ったという評価であっても、横断的な取り組みとしては、どうであったのか、また、住民の暮らしから見て、どうであったのかという評価ができていないと感じる。現在の指標上では、「行政が〇〇を実施した」というものが多く見られるが、結果として、それによって住民の暮らしが、どのように変化したのかということが分からない。指標の設定は確かに難しいが、工夫し、横断的な取り組みが分かるような評価ができるようにしてほしい。また、住民の暮らしぶりを測る指標としては、地域数で示すようなことも、可能ではないかと思う。(例えば、安全安心宣言を行った地域数の指標化など)、安全という一面をとってみても、徹底的に安全に取り組まなければならない地域、比較的安全である地域では、地域によって取り組み方が違うはずであるので、そこを施策として、全市的に取り組んで画一的に評価するという考え方は、かえって不自然に感じる。例えば「景観ブランド化」という点でも、地域を絞って見た方が、焦点が絞れて、何が実現していて、どこが実現していないということが明確になるように思うので、評価の仕方が暮らしレベルで分かるような工夫と施策を通じて市内全域をどのようにしていくのかというシナリオが欠如しているように感じた。</p>
委員長	<p>主に指標の改善についての話であったと思うが、委員会として一つ一つの展開方針で、もっとこのような指標にすれば良いという具体的な意見が出せればよかったし、事実、僅かながら、そうした意見を出させてもらったケースもあった。次年度以降、委員会としてもそのような視点を強くもって取り組みたいし、担当部局としても意識して取り組んでいただきたい。後の意見としては、施策にも地域的な重点があるとの意見であったと思う。</p> <p>ところで、複数部局が横断的に取り組むことに対する課題とは具体的には、何ですか？評価の測り方の問題ですか？</p>
委員	<p>自分自身が関わっているために、そう思うのかもしれないが、一番課題であると感じるのは、協働のパートナーとして市民と行政がお互い</p>

	<p>に育っていかなければならないのに、住民を育成し、啓発して学習させる施策と、育成した人材を行政が活用するという施策が繋がっていないということである。そういった問題が、各所にあるのではないかと感じている。</p>
委員長	<p>了解しました。 それでは、続いて委員に意見の説明をお願いします。</p>
委員	<p>大きく四点あるが、まず一点目は、事務事業の構成について、施策目標の達成手段である事務事業が、不足している施策が見受けられ、これは、第4回の環境施策では、特に感じた。</p> <p>また、事務事業を大きくくりにして、人材育成、啓発等、様々な要素が含まれていて、結局、それによって手段が分かりづらくなっている事務事業があり、市民から見ても理解しづらいだろうと感じるものが、見られた。こうした施策については、新規事業を立案したり、手段の一覧性や情報公開の観点から、事務事業の単位を再考した方が良いのではないかと感じた。二点目は、今後の施策の進行管理について、3ヵ年で全施策を進行管理していくことになるが、社会状況や経済状況等により施策が変化することもあることから、事業がいらなくなるような事も十分あり得ると思うので、今回1年目で評価した施策も2年後には、全然違うことになることも考えられるため、そういった施策を何らかの形でチェックできるようにすることが、必要ではないかと感じた。また、3年後には、後期総合計画の策定に向けた議論にもなるので、そこで行政評価を施策立案に活かせるようにしたいと感じた。</p> <p>三点目は、総計の柱立てや指標の中に、違和感を感じるものが見られた。(例 講座の開催回数の指標等) 委員の指摘にもあったが、市民の実感としてどうかという指標を構築していくことが必要であり、次の計画の立案に向けて、評価委員会として提言すべきと感じた。</p> <p>最後に四点目は、総合計画における重点目標について、具体的には、「新しい公共領域の拡充」、「行政マネジメントシステム」、「宝塚ブランドの強化」、「子どもたちの成長を地域全体で支える」など色々あるが、そういった視点から、事務事業が構築されているのかといった点について、今回、指摘ができなかった反省があるので、次年度以降6つの総計の重点目標に沿った視点から評価をしていく必要があると感じた。</p>

委員	<p>今後の進行管理について、総計の策定にこの委員会の意見を反映させるということには、賛成である。総合計画策定の中に、住民の皆さんがたくさん入って来られることは、情報格差という問題から、住民にとって、非常にしんどい作業であると感じていた。それに対して行政評価は、住民という立場から、行政に対して意見を言うことが容易であり、有効な検討を積み重ねることができ、良かったと感じている。総計の策定に公募された委員の中には、もっと勉強させてほしかったという意見を述べられている方もあったので、そうした人にとって、今回の評価の文章は、施策を理解するのに非常に良いので、是非、総計策定の際にも活かしてほしいと思った。</p>
委員長	<p>続いて、委員の意見について、説明をお願いします。</p>
委員	<p>私は、評価全体を振り返ってというような書き方が、上手くできなかったもので、自分が気づいた点について、書かせてもらった。</p> <p>全体的に見て、何が言いたかったのかと言うと、私にとって評価という作業は、大変難しかったのであるが、地域の中で活動をしている者にとって、行政の職員が一生懸命に施策を作って、実施していることが、こんなにも地域に伝わりづらいことなのか、地域の受け止めが、こんなにできないものなのかということを終始一貫して感じていた。</p> <p>行政が市民の皆さんのためにとやっていることが、伝わり方が悪いために、効果を発揮できないことになっていたり、住民に誤った誤解を与えていて、住民が良い評価をしなかったりしていることが、ここに来て話を聞けば、「行政がすごく工夫をして、色々な人達のことを考えて、施策を作っている」と理解できた。市民は、地元に戻れば、地域の地域のことしか考えなかったり、自分と正反対の考え方の人がいることを考えないで、施策の良し悪しを判断してしまうことがあるので、どうしても偏った見方をしてしまう。そういう見方をしないために、行政は一生懸命に考えて提案しているということを、もっと伝える術があれば良いと、終始一貫して感じた。そこで、「行政以外の中間的な存在として、コーディネーター的な存在が必要ではないか」という意見を書かせてもらった。行政の職員が説明すると、「行政にとって都合よく話している」と言われたり、市民が言う「行政のことを理解しないで言っている」と思われることも、コーディネーター的な存在があればもっと上手く意思疎通を図れるのではと感じて、意見として記入した。次のフォーラムとイベントについても同様であるが、実際に</p>

	<p>市の部局の職員の説明を聞いて、初めて趣旨や目的が理解できたのであるが、それをもっと上手く伝えるためには、市民の意向も組み入れて、取り組んでもらえれば、もっと上手く伝わるのではないかと感じた。先程、委員の話の中で、総計の策定に取り組まれた住民の方が、大変難しい作業をされたとの意見があった。</p> <p>現在、協働の指針策定委員会で協働の指針の策定についても取り組んでいるが、非常に難しく、議論に入ることも困難と感じるほどである。何の議論をされているのかわからないまま、第5次総計を組み立てた方同士の議論で進んで行っている状況である。市民が作る協働の指針は、誰が見ても一目瞭然で協働ということに同じ認識をもてるようにしなければいけないと感じるが、あまりに難しいと、皆が見ても分からないし、それぞれに勝手に解釈する人ができたりするので、本当に分かりやすい指針になるのかと不安に思っている。今回の行政評価では、どの施策についても協働にどう取り組んでいるのかという視点があるので、難しすぎるものではないものを市民には提供して、行政が頑張っているということも、きちんと市民に伝わるものにしてほしいと思った。その視点の一つで、新人市職員が地域に出て、自治会長から話を聞くような取り組みを行うと聞いているが、地域の人と話をし、地域の問題を直に耳にし、触れ合うという取り組みは、地域との距離を縮めるということからも、よいことだと思う。今はコーディネーター的な人が必要でも、将来は行政ときちんと話ができるようになることを期待する。また、市職員も地域に戻られた時には、一人の市民の目線で、地域問題に取り組み、地域活動の活性化に力を発揮してほしい。</p> <p>【地域で取り組む公園管理】の意見については、この意見をまとめて絶対に盛り込んでほしいと言うわけではなく、一委員の意見として、担当課にとどけば良いと考えて書いた。</p>
委員長	<p>今の意見に質問等がありますか？ (質問等なし) 次に委員をお願いします。</p>
委員	<p>私からは、三点指摘したい。 一点目は、事務事業評価表の記入の仕方であるが、協働の取り組みの評価については、「協働に取り組んでいる」、「協働に馴染まない」の評価しかでてこないが、協働に取り組んでいるその内容が何かというこ</p>

とについて、今回は具体的な記入をお願いしたい。委託事業として協働に取り組んだ事業とイベントの参加者として市民に呼びかけて協働を促した事業とでは、雲泥の差があると思うので、そこをきちんと書くことによって、職員の協働に対する認識がステップアップするかもしれないし、市民が参画して取り組んでいこうと思ってくれるかもしれない。そういった段階が分かるようにしてもらえれば、3年間見ていく中で、この事業は協働をステップアップして取り組んでいる事業であるなどが、分かるようになるので、できることであれば、事務事業評価表を改めてもらいたい。

二点目は、委員会全体を通じて、市の事業にこんなにも多くのボランティアが関わっているのかということを知った。NPOの側からは、委託事業にしてほしいと言っていたのであるが、それはそれで、素晴らしいことだと感じた。ボランティアの高齢化、活動のマンネリ化を防がないと、これから数年後には、市はやっていけないのではないかと思った。ボランティアの研修や、ボランティアリーダーが新しいボランティアを受け入れるためにどういう研修をすれば良いのかについて、どこかで研修できないか考えてみたが、市の職員では、ボランティアに指示するようなことはできないし、職員の人件費がかかれば、一定の成果を求められることから、何か工夫してできないものかと思っている。宝塚NPOセンターでは、この10月、11月に組織のリーダーとして、どういうふう新しい人を入れていくのかということや、組織のリーダーのあり方といったボランティアも入れるような講座を行う。今、この講座のチラシが出来たときに、市のどの部局に持っていけば良いのかがわからない。その辺りの取りまとめを市で明確にしてもらえれば、何らかの手が打てると思った。後、三点目は、市庁内の連携についてであるが、前回の第5回委員会で、すみれ墓苑の送迎バスについて、誰が運転するのかについて、話をさせてもらったが、地域の人を雇用して運転してもらっているということであった。その数回前には、交通対策でコミュニティバスの話をしたが、そういうことを上手く繋げていくことで、例えば、西谷に走るコミュニティバスがすみれ墓苑の送迎の部分を担当することになれば、地域の一個人に落ちるお金が、地域に落とすお金となり、地域全体の底上げになるのではないかと感じた。それには横断的に市の中で、色々な事業を考える何かが必要だと思う。また、施策の目的に合致していれば、市民提案の事業も事業化できることが分かったので、現在、国からも新しい公共の拡充に対して補助金がでていますが、そういった補助についても

<p>委員長 委員</p>	<p>施策目的が合致していれば、有効活用して事業立てができるように、市の職員も積極的に考えてもらいたい。</p> <p>主に協働という観点から意見いただいたが、何か質問等はあるか？ 今回から初めて、外部評価を導入して、行政の仕組みを住民に分かりやすいように変革するといったことに生かして行く必要性を感じる。 市民参加も単に協働しているというということではなくて、実際にどんな協働に取り組んだのかを記入するということは、住民参加の段階を指標として持つことにもなり、総計で「協働」を重視していることから、協働の進展度合いを測ることができ、外部評価を導入した成果に繋がるのではないかと思う</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、委員の意見についてお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>私は市民公募委員ということで、専門委員の皆さんとは異なる経緯で委員会に参加したが、市から車で10分前後のところに住んでいながら、せいぜい住民票を取りに来ることぐらいしか来たことがなかったので、市役所はどのようになっているのかということに興味があった。行政評価委員会に参加させていただいて、各委員の質問に熱心に対応する職員を見て、市民として安心した。今後もこの調子で頑張ってもらえれば良いと思った。また、先に委員長が述べられていたように、1つの施策の展開方針に10分程度しか時間をかけられないということ、資料に記載されている施策の事務事業は代表的なもののみを記載しているという事もあり、行政とのかかわりのなかった素人の私にとっては問題点を的確に指摘するのは難しかったが市民目線を基準に発言したつもりです。より理解を深めるために、現実的に出来るかどうかは別として、次回以降、施策の意味を理解して、より深い議論ができるように、現地視察等も考慮してもらえればと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>現地視察については、他自治体の行政評価では、実施されているケースもあるが、必ず全委員が集まって実施するというのであれば、日程調整上も大変であるので、分からない部分を事務局に言っていただくことや、委員長が事務局につないで予備知識を得ていただくような機会をつくることも検討したい。全員で行けなくても数人の委員で、非公式として、現地視察をしてもらうようなことも考えられると思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>全体をどうまとめるかについて事務局と打ち合わせているわけではないが、各委員の皆さんの意見を伺っていて、今回評価した施策、事務事業に関し、個別に指摘を行った部分はあったものの、総体的には概ね妥当な実施状況であると言えるのではないかと思う。</p> <p>各委員の皆さんの意見はどうか。委員会の意見として、概ね妥当という方向性で考えてよいか。</p> <p><特に反対意見等なし></p>
<p>委員長</p>	<p>まだはっきり書くと決まっているわけではないが、教育の評価では「妥当である」「そうではない」といった評価を書いている。個別の施策、事務事業については、協働の部分等について指摘はあるものの、概ね妥当という評価となるかと考えている。</p> <p>次に評価全体の制度や仕組みに対する意見を、各委員の意見から集めていく。運用について、10分という時間で評価するのは難しい面があることや現地視察等より効果的な評価のための方法等について整理していく。</p> <p>また、次へのつなぎとして、委員から外部評価が入ったインパクトを活用してはどうかという意見があった。そこから大きくは協働やボランティアの在り方といったところにつなげていく。</p> <p>大きな認識では宝塚市は協働の推進、ボランティアの活用に熱心に取り組んでいるという印象がある。委員から意見のあった、行政と市民との意識共有、両者をつなぐコーディネーターのことや、ボランティアの高齢化・マンネリ化対策、市民からの政策提案等を順番に書いていく。そういった構成が考えられる。</p> <p>他にもっと大きな柱が必要ではないかといった意見はないか。評価について、協働・ボランティアについてと分けて書いていけるかと思うが。その方向でよいか。特に意見が無ければ、せっかくきずなづくり室 きずなづくり室長に来ていただいているので、一言いただきたい。</p>
<p>きずなづくり室長</p>	<p>現在、協働の指針の策定作業を行っている。宝塚市では平成14年にまちづくり条例を作った。全国で2番目、当時としては画期的なものだった。そのようにして、市民との協働の推進を図ってきたわけであるが、全体的に見て思うように進んでいない部分も多い。協働の促進を目指して、協働の指針作りに取り組んでいるわけであるが、なぜ協</p>

	<p>働が進まないのか深い分析と検討が必要とする意見もあり、なかなか難しい作業となっている。行政、市民、双方に問題があったという認識でいるが、行政評価委員会の中でも指摘があったように、市民にとって分かりやすいマニュアルの必要性とか、市職員と地域と関わり方の問題など、協働を進める上で大きな課題であると考えている。公園管理については、確かに高齢化は大きな問題。できるだけ維持管理しやすい形での公園管理を推奨したり、掃除くらいならという場合にはごみ袋だけ渡すとか、草刈もできる場合は管理協定を結ぶなど、できるだけ細やかに対応しているつもり。ただ、その辺りのことが十分に市民に伝わっていない部分はあるかと思う。ふれあいトークという制度があり、市民が相談したい案件があれば、担当職員が出向いて説明を行ったりする。いただいた意見は施策にも反映させていく。こういった制度もどんどん利用してもらえるようアピールしていきたい。計画から評価まで市民に参加してもらおうという仕組みを作ることが、協働における大きな理念のひとつ。行政評価委員会での意見は、協働の指針にも反映させていきたい。</p>
委員長	<p>引き続き、協働、ボランティアに関して、もう少し意見をいただきたい。委員会中で意見のあったコーディネーターについて、役割、位置付けについてももう少し詳しくご説明願いたい。</p>
委員	<p>短絡的な意見に聞こえるかもしれないが、地元自治会に元市職員の方がいる。自治会の中でも元市職員の立場から発言をする。地域ではやはり元市職員の発言には重みがあり、よく聞くととても大切なことをいってくれている。でもその表現次第では真意が伝わらず、他の人には圧力になり何も言えなくなってしまう。地域でボランティアをやっている人たちにとって、元市職員の発言は重い。言い返すこともできず、中には反発する人も出てくる。昨年から何度もそういう経験をしたので、「地域の人々の反発を招かず、市民にとって分かりやすい説明のできる人」ということで、行政職員以外のコーディネーターの必要性を感じた。最近では、新任職員が地域に出て話しをするといったこともやられるようだし、普通に話せる職員が増えれば、そもそもコーディネーターは必要なくなるだろう。でも、職員は市民にとって大事なことを言ってくれているが、使う言葉が難しいと伝わらない。防災関連の出前講座で総合防災課の職員に来てもらったことがある。難しいことでも噛み砕いてやさしく説明してくれた。地域自ら望んで特定の</p>

<p>委員</p>	<p>目的について説明してもらった場合はともかく、やはりまだまだ市職員の話聞く際には通訳がいると感じる。</p>
<p>委員長</p>	<p>神戸市には外部のコーディネーター役がいる。市にそういう人がいれば、団体だけでなく個人も話をしやすい。自治会、まちづくり協議会に属さないような人たちも話をしやすくなる。自分にできることをやりたいと感じている人たちの助けになるのでは。</p>
<p>委員長</p>	<p>他に何か意見があれば自由に発言して欲しい。</p> <p><特に意見なし></p>
<p>事務局</p>	<p>各委員の意見をまとめ、おおよその講評イメージが見えてきたと思う。最終的なまとめについては、先程説明した構成内容で、事務局と私に一任の形で整理させていただきたい。まとまった講評内容については、事務局よりメールで送付するので確認をお願いしたい。</p> <p>これで今年度の行政評価委員会は終了となるが、来年度以降も評価は続く。事務局より今後の予定について説明願いたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>各委員事前確認の上で、全体の講評、及び各施策展開の方針のまとめを9月末までに、委員長より市長に提出してもらおう。講評及びまとめは、戦略計画、実施計画、次年度予算へと反映させていく。</p>
<p>委員</p>	<p>それでは最後に各委員より一言。</p>
<p>委員</p>	<p>短い時間の中ではあったが、メリハリをつけて審議することで、中身の濃い審議となったと思う。長ければよいというものでもないと感じた。私自身も勉強になった。</p>
<p>委員</p>	<p>宝塚の地域の生の声を聞くことができた。どうしても他市の評価、状況等と絡めて判断しがちになるが、実感を持って評価することが大切だと改めて感じた。次回もその辺りをふまえて評価に臨みたい。</p>
<p>委員</p>	<p>もっと全市的な意見を言うべきとも思ったが、現場目線での意見、感想を率直に述べさせてもらった。いい経験になった。自治会連合会にもこの経験をフィードバックしていきたい。</p>

委員	自分に務まるか不安もあったが無事終ってほっとしている。協働という部分に力点を置いた評価、発言が多くなってしまった。審議を通じて自分の仕事への気づきになった部分も多々あり感謝している。
委員	普通の市民目線で質問をしたが、拙い質問だったかもしれない。委員会を通じて随分と勉強させてもらった。もっと勉強して次年度以降も頑張りたい。
委員長	市を代表して理事より一言いただきたい。
理事	大変勉強になった。市は常に事業を進める側であるため、気づかない部分もある。外部からの指摘を受け、それを取り入れ、結果を示していく。これを繰り返すことで第5次総合計画の目標が達成されると考えている。濃密な議論に感謝している。
委員長	<p>各委員、事務局、対応してくれた職員に感謝している。外部評価の役割は、政策の妥当性、事務事業の妥当性、手段の妥当性について率直に意見を言うこと。当然、市には市の事情がある。まったくおかしな施策、事業というのはいり得ないが、第三者の目線で率直に意見を述べていくことが大切。我々学識経験者は専門知識を、各委員はそれぞれの分野での知識や経験を活かして評価を行ったわけだが、上手くこなせたのか不安もある。来年度以降良いところは残し、悪いところは改善していく。外部評価は絶対的な正解ではないし、お墨付きを与えるものでもない。評価が市民、職員、議員の気づきとなることを期待している。</p> <p>ではこれで今年度の行政評価委員会の審議を終了する。皆さんご苦勞様でした。</p>